

校長のひとりごと 12 (サマースペシャル)

「心に移りゆくよしなし事をそこはかとなく書き作れば…」

校長の内田です。夏休みもあと一週間となりました。あっという間ですね。26日(月)は始業式です。遅れないように登校しましょう。まさか9月2日が2学期の始まりだなんて思っている人はいないでしょうか？夏休みが40日以上あったのはずっと昔の話です。そろそろ生活のリズムも整えていかないと2学期の始まりに間に合わなくなってしまいますよ。各学年によって違うとは思いますが、夏休みの宿題も出ていたはずですよ。終わっているのでしょうか？始業式の前日に徹夜なんてならないように…ちょっと心配をしています。

先日、橋本上町の納涼祭がありました。軽音楽部、吹奏楽部、居合道部が参加してくれました。暑い中でしたが、生徒たちは一生懸命に演じさせてもらいました。町内会をはじめ、通りすがりの方々も足を止めて、演奏や演武を見ていただきました。手拍子や声援も…ありがとうございます。橋本高校は地域を大事にしていきたいと思っています。これからも何かありましたら、ぜひお声かけください。



ひこうか しょう 非行化させる20ヶ条 (その3)

さて、前回の続きです。夏休み中に最後までいくのでしょうか？

11. 客が帰った後、必ず子どもの前で客のあらさがしをし、客の悪口を言うべし。



対人不信感助長法です。帰った後に悪口を言われたら、その人はどんな人なんだろうって思いますよね。悪口は先入観や不信感を植え付けられることになります。不信感の強い人は、敵意を伴う苦悩と関連が深く、対人問題を感じやすいことが報告されています。また、他者に対して、冷笑的で否定的な態度を取る人は、対人関係で怒りや恨みを頻りに経験しやすいといわれています。人に対する不信感が強いと、友達になるために疑うことになるため、自分も相手も苦しい関係になってしまうのです。

12. 問題解決は感情で処理し、暴力に訴えるか、集団の実力を悪用するのが手取り早いことを子どもに示すべし。

短絡的問題解決法のすすめです。(笑) 短絡的とは、論理的な思考をせず条件などを考慮しないまま物事を断定することを指します。短絡的な思考を持っていると、問題が起きた時に「なぜその問題が起きたのか」「どうすればいい解決方法が見つかるか」といった深い分析が苦手なので、問題を解決しにくくなります。また、短絡的な思考や発想のままだと、周囲から浮きやすくなります。結局、うまくいかないからまた力で何とかする…負のスパイラルです。



13. 子どもが良いことをしたり、努力をしてもほめるべからず。むしろ、ごまかしや裏切りなどの悪事をうまくやったら忘れずにほめること。

大人でも子どもでも褒められると嬉しいですね。当然です。大人は判断ができるので間違っただけを褒められても嬉しくはありませんが、子どもはまだそこまでの善悪の判断ができていないので、間違っただけを褒められれば、それが正しいという価値判断になります。褒められたいがために悪事や裏切りを繰り返すのは時間の問題です。

14. 子どもの前で決して夫婦間の意見を一致させるな。父親は難しい問題からうまく逃げられるに限る。

しつけの基準の混乱です。子どもは親をよく見えています。一番身近な存在ですから当然ですね。言っていることが違う…どっちが正しいのか、何をすればいいのかを迷います。少し大きくなればどちらかが正しいのか判断もつくようになるとは思いますが、原文では父親となっていますが、これは父親だけではありません。その姿を見ている子どもは将来困難なことがおこると逃げるようになります。子どもと真摯に向かい合う。これが後々子どもに対しても信頼を得ることになります。大きくなって「困ったときに何も助けてくれなかったじゃないか」と言われたいようにしたいものです。



15. 子どもの異性友だちはまずみだらなものと想像し、口汚くののしるべし。



(異)性に対して間違った考え方を植え付けることになります。
間違った考え方は付き合い方にも影響します。支配や束縛、依存
等の形で現れたりします。お互いを尊重しあうこと、お互いは
大事な存在であることなどがわからなくなり、恋人や夫婦関係も
うまく作れなくなったりするようです。人間関係の距離はとても
大事です。人権教育の放棄でもあります。

今日はここまでです。